

産学連携実習受入承諾事業所一覧（受入可能人数）

【製造業】

事業所名	所在地	業種	産学連携実習 I			産学連携実習 II	最寄の駅・停留所及び距離	大学からの直線距離
			A	B	C			
1	三条市	自動車・同附属品製造業	3	3	3	3		
2	燕市	鉄鋼業	0	1	0	0		
3	三条市	利器工器具製造業	3	3	3	3		
4	三条市	鋳鉄鋳物製造業	2	2	2	2		
5	燕市	油圧システム製品製造業	1	1	1	1		
6	三条市	利器工器具製造業	0	0	2	0		
7	三条市	金属プレス製品製造業	2	0	0	2		
8	三条市	農業用機械製造業	1	1	1	1		
9	三条市	金属加工機械製造業	2	2	1	1		
10	燕市	金属加工機械製造業	0	2	0	2		
11	燕市	金属加工機械製造業	2	2	2	2		
12	三条市	金属加工機械製造業	4	4	4	4		
13	燕市	自動車部品製造業	2	2	2	2		
14	三条市	利器工器具製造業	1	0	0	1		
15	三条市	建設・建築用金具製造業	2	2	2	2		
16	三条市	プラスチック製品製造業	5	5	5	5		
17	三条市	金属加工機械製造業	2	2	2	2		
18	三条市	鍛工品製造業	1	1	1	0		
19	三条市	金属用金型・附属品製造業	0	0	5	2		
20	三条市	建設・建築用金具製造業	2	2	2	2		
21	三条市	鉄鋼業	1	1	1	1		
22	三条市	建設・建築用金具製造業	1	0	0	0		
23	三条市	利器工器具製造業	3	3	3	5		
24	三条市	利器工器具製造業	0	2	2	1		
25	三条市	プラスチック製品製造業	0	1	0	1		
26	三条市	暖房製品製造業	1	0	0	0		
27	三条市	金属加工機械製造業	3	3	3	3		
28	三条市	配管工事用品製造業	2	2	2	2		
29	燕市	金型・附属品製造業	2	2	2	1		
30	三条市	利器工器具製造業	1	1	1	1		
31	三条市	利器工器具製造業	2	2	2	1		
32	三条市	その他金属製品製造業	2	2	2	2		

33	燕市	金属加工機械製造業	2	0	0	0	2	2			
34	三条市	金属加工機械製造業	10	10	10	10	5	5			
35	三条市	金属加工機械製造業	2	2	2	2	4	4			
36	三条市	鋁鉄鋳物製造業	0	0	0	1	1	1			
37	三条市	金属加工機械製造業	1	0	0	0	1	1			
38	三条市	鋁鉄鋳物製造業	3	3	3	3	2	2			
39	三条市	プラスチック製品製造業	1	1	1	1	1	1			
40	三条市	金属加工機械製造業	3	3	3	3	2	2			
41	三条市	自動車・同附属品製造業	2	2	2	2	2	2			
42	三条市	利器工器具製造業	2	2	2	2	2	2			
43	三条市	計量器・測定器製造業	2	2	2	2	2	2			
44	三条市	利器工器具製造業	1	1	1	1	1	1			
45	三条市	利器工器具製造業	2	2	2	2	2	2			
46	燕市	建設・建築用金具製造業	1	1	1	1	1	1			
47	燕市	金属熱処理業	1	1	1	1	1	1			
48	燕市	金属プレス製品製造業	1	0	0	0	0	0			
49	三条市	建設・建築用金具製造業	2	2	2	2	2	2			
50	燕市	金型・附属品製造業	1	1	1	1	1	1			
51	三条市	利器工器具製造業	2	2	2	2	1	1			
52	三条市	計量器・測定器製造業	2	2	2	2	2	2			
53	三条市	紙器製品製造業	3	3	3	3	3	3			
54	燕市	利器工器具製造業	2	2	2	2	2	2			
55	三条市	金型・附属品製造業	1	1	1	1	0	0			
56	燕市	研磨業	2	2	2	2	2	2			
57	燕市	金属加工機械製造業	1	1	1	1	1	1			
58	三条市	利器工器具製造業	0	0	0	2	0	0			
59	三条市	金属プレス製品製造業	2	2	2	2	2	2			
60	三条市	利器工器具製造業	2	2	2	2	0	0			
61	三条市	利器工器具製造業	1	1	1	1	0	0			
62	三条市	その他金属製品製造業	2	2	2	2	2	2			
63	三条市	計量器・測定器製造業	5	5	5	5	5	5			
64	三条市	金属プレス製品製造業	2	0	0	0	0	0			
65	三条市	自動車・同附属品製造業	2	2	2	2	2	2			
66	三条市	建設・建築用金具製造業	1	1	1	1	1	1			
67	三条市	厨房機器製造業	4	4	4	4	4	4			
68	三条市	利器工器具製造業	4	4	4	4	2	2			
69	三条市	溶接業	2	2	2	2	1	1			
70	燕市	汎用自動車・部品製造業	1	0	0	0	1	1			
71	三条市	鉄鋼業	0	0	0	1	1	1			
72	燕市	自動車関連機器製造業	0	2	2	0	0	0			

73	燕市	金属加工機械製造業	0	0	1	0
74	三条市	金属被覆処理業	2	2	2	0
75	三条市	鍛工品製造業	2	2	2	2
76	三条市	建設・建築用金具製造業	1	1	1	1
77	三条市	建設・建築用金具製造業	1	1	1	1
78	三条市	利器工器具製造業	1	1	1	0
79	三条市	樹脂製品製造業	2	0	2	0
80	三条市	金属加工機械製造業	3	3	3	3
81	燕市	金属加工機械製造業	0	2	2	2
82	燕市	金属被覆処理業	2	2	2	0
83	三条市	利器工器具製造業	2	2	2	2
84	燕市	ステンレス製品製造業	2	2	2	2
85	三条市	金型・附属品製造業	2	2	2	2
製造業 小計			151	147	154	134

【卸売業】

事業所名	所在地	業種	産学連携実習 I			産学連携実習 II	最寄の駅・停留所	距離	大学からの直線距離
			A	B	C				
86	三条市	その他の卸売業	3	3	3	3			
87	燕市	金属製品卸売業	2	2	2	2			
88	三条市	金物卸売業	1	1	1	1			
89	三条市	金物卸売業	0	0	2	0			
90	三条市	金物卸売業	3	3	3	2			
91	三条市	金物卸売業	3	3	3	4			
卸売業 小計			12	12	14	12			

【その他の業種】

92	三条市	印刷業	2	0	2	2		
その他の業種 小計			2	0	2	2		
合計			165	159	170	148		

承 諾 書

公立大学法人 三条技能創造大学 工学部の設置の際は、「産学連携実習」の実施にあたり、実習生を受け入れることを承諾します。

	産学連携実習 I A	産学連携実習 I B	産学連携実習 I C	産学連携実習 II
受入人数	人	人	人	人

年 月 日

住 所

事業所名

代表者名

印

三条市長 國定 勇人 殿

承諾書について

(承諾書の目的)

第1条 本承諾書は、(企業名) (以下「甲」という。)が、公立大学法人 三条技能創造大学 工学部 (以下「乙」という。)が設置された際は、産学連携実習 (以下、便宜上「実習」という。)の実施にあたり、乙の学生を実習生として受け入れることを承諾したことを証するものである。

(実習生の受け入れに関する手続き)

- 第2条 実習生の受け入れにあたっては、受け入れを行う前に、実習の内容等について、甲と乙で調整を行うものとし、実習生の受け入れに関する覚書を交わすものとする。
- 2 甲は、実習生の受け入れにあたり1名以上の実習受入責任者および1名以上の実習指導員を選任し、実習生の指導と評価を行う。実習受入責任者および実習指導員には、甲の常勤職員であり、実習生の従事する作業について十分な経験を有しているとともに、実習を円滑に実施するために必要な措置を講ずることのできる権限を有する職位である者を充てる。なお、実習受入責任者は実習指導員を兼ねることができる。
 - 3 甲は、実習を行うための適切な環境を整備する。
 - 4 甲と乙は、実習の内容、教育方法および評価方法について事前に十分な協議を行う。
 - 5 乙は、必要に応じて、甲の実習受入責任者および実習指導員に対して、実習の内容や教育方法、評価方法について助言を行う。

(その他)

第3条 本承諾書に定めがない事項、又は本承諾書に疑義が生じた事項については、甲乙協議の上、誠意をもって解決にあたるものとする。

以上

令和5年10月 教員巡回計画表 (産学連携実習 I B) ※ 産学連携実習 I の巡回頻度は、1事業所での実習中に1回 ※ ◎は登校日

事業所名	受入人数	1週目							2週目																												
		10/1	10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29							
		日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木			
1	3																																				
2	1																																				
3	3																																				
4	2																																				
5	1																																				
8	1																																				
9	2																																				
10	2																																				
11	2																																				
12	4																																				
13	2																																				
14	2																																				
15	2																																				
16	5																																				
17	2																																				
18	1																																				
20	2																																				
21	1																																				
23	3																																				
24	2																																				
25	1																																				
27	3																																				
28	2																																				
29	2																																				
30	1																																				
31	2																																				
32	2																																				
34	10																																				
35	2																																				
38	3																																				
39	1																																				
40	3																																				
41	2																																				
42	2																																				
43	2																																				

※産学連携実習は、学生の実習先希望を踏まえた調整を行うことから、実際の実習先は現時点では不明なため、本資料に記載した事業社名は、資料17で示した事業所のNO.1から受入人数が80人に達するまでの事業所とした。

凡例：網掛けは実習日、アルファベットは各専任教員

- A:島田、B:李、C:金子、D:片桐、E:田辺、F:永澤、G:泉、H:塚本、I:茨木、J:高橋、K:和田、L:大川、M:伴、N:川崎、O:小林
P:加藤、Q:橋本、R:謝、S:田代、T:江面、U:石塚、V:野口、W若木

令和5年9月 教員巡回計画表（産学連携実習Ⅱ）

※ 産学連携実習Ⅱの巡回頻度は、期間中に4回

※ ▲は学内でガイダンス

事業所名	受入人数	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30						
		金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土						
1	3																																				
3	3																																				
4	2																																				
5	1																																				
7	1																																				
8	1																																				
9	1																																				
10	2																																				
11	2																																				
12	4																																				
13	2																																				
14	1																																				
15	2																																				
16	5																																				
17	2																																				
19	2																																				
20	2																																				
21	1																																				
23	5																																				
24	1																																				
25	1																																				
27	3																																				
28	2																																				
29	1																																				
30	1																																				
31	1																																				
32	2																																				
33	2																																				
34	5																																				
35	4																																				
36	1																																				
37	1																																				
38	2																																				
39	1																																				
40	2																																				
41	2																																				
42	2																																				
43	2																																				
44	1																																				

※産学連携実習は、学生の実習先希望を踏まえた調整を行うことから、実際の実習先は現時点では不明なため、本資料に記載した事業社名は、資料17で示した事業所のN0.1から受入人数が80人に達するまでの事業所とした。

凡例：◎は登校日、網掛けは実習日、アルファベットは各専任教員

A:島田、B:李、C:金子、D:片桐、E:田辺、F:永澤、G:泉、H:塚本、I:茨木、J:高橋、K:和田、L:大川、M:伴、N:川崎、O:小林
P:加藤、Q:橋本、R:謝、S:田代、T:江面、U:石塚、V:野口、W:若木

令和5年11月 教員巡回計画表（産学連携実習Ⅱ）

※ 産学連携実習Ⅱの巡回頻度は、期間中に4回
※ ◎は登校日

事業所名	5週目							6週目							7週目							8週目							9週目						
	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19	11/20	11/21	11/22	11/23	11/24	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29	11/30					
1	水	木	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
7	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
8	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
9	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
10	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
11	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
12	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
13	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
14	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
16	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
17	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
19	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
20	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
21	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
23	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
24	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
25	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
27	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
28	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
29	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
31	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
32	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
33	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
34	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
35	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
36	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
37	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
38	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
39	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
40	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
41	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
42	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
43	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
44	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						

※産学連携実習は、学生の実習先希望を踏まえた調整を行うことから、実際の実習先は現時点では不明なため、本資料に記載した事業社名は、資料17で示した事業所のNO.1から受入人数が80人に達するまでの事業所とした。

凡例：◎は登校日、網掛けは実習日、アルファベットは各専任教員

- A: 島田、B: 李、C: 金子、D: 片桐、E: 田辺、F: 永澤、G: 泉、H: 塚本、I: 茨木、J: 高橋、K: 和田、L: 大川、M: 伴、N: 川崎、O: 小林
- P: 加藤、Q: 橋本、R: 謝、S: 田代、T: 江面、U: 石塚、V: 野口、W: 若木

令和5年12月 教員巡回計画表 (産学連携実習Ⅱ)

※ 産学連携実習Ⅱの巡回頻度は、期間中に4回

※ ◎は登校日

事業所名	10週目							11週目							12週目																
	12/1	12/2	12/3	12/4	12/5	12/6	12/7	12/8	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31
1	◎																														
3	◎																														
4	◎																														
5	◎																														
7	◎																														
8	◎																														
9	◎																														
10	◎																														
11	◎																														
12	◎																														
13	◎																														
14	◎																														
15	◎																														
16	◎																														
17	◎																														
19	◎																														
20	◎																														
21	◎																														
23	◎																														
24	◎																														
25	◎																														
27	◎																														
28	◎																														
29	◎																														
30	◎																														
31	◎																														
32	◎																														
33	◎																														
34	◎																														
35	◎																														
36	◎																														
37	◎																														
38	◎																														
39	◎																														
40	◎																														
41	◎																														
42	◎																														
43	◎																														
44	◎																														

※産学連携実習は、学生の実習先希望を踏まえた調整を行うことから、実際の実習先は現時点では不明なため、本資料に記載した事業社名は、資料17で示した事業所のNo.1から受入人数が80人に達するまでの事業所とした。

凡例：◎は登校日、網掛けは実習日、アルファベットは各専任教員

A:島田、B:李、C:金子、D:片桐、E:田辺、F:永澤、G:泉、H:塚本、I:茨木、J:高橋、K:和田、L:大川、M:伴、N:川崎、O:小林
P:加藤、Q:橋本、R:謝、S:田代、T:江面、U:石塚、V:野口、W若木

令和6年1月 教員巡回計画表 (産学連携実習Ⅱ)

※ 産学連携実習Ⅱの巡回頻度は、期間中に4回

※ ◎は登校日

事業所名	13週目							14週目							15週目							16週目									
	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31
1	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
3	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
4	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
5	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
7	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
8	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
9	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
10	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
11	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
12	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
13	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
14	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
15	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
16	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
17	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
19	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
20	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
21	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
23	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
24	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
25	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
27	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
28	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
29	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
30	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
31	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
32	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
33	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
34	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
35	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
36	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
37	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
38	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
39	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
40	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
41	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
42	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
43	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
44	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休

※産学連携実習は、学生の実習先希望を踏まえた調整を行うことから、実際の実習先は現時点では不明なため、本資料に記載した事業社名は、資料17で示した事業所のNO.1から受入人数が80人に達するまでの事業所とした。

凡例：◎は登校日、網掛けは実習日、アルファベットは各専任教員

- A: 島田、B: 李、C: 金子、D: 片桐、E: 田辺、F: 永澤、G: 泉、H: 塚本、I: 茨木、J: 高橋、K: 和田、L: 大川、M: 伴、N: 川崎、O: 小林
- P: 加藤、Q: 橋本、R: 謝、S: 田代、T: 江面、U: 石塚、V: 野口、W: 若木

令和6年2月 教員巡回計画表 (産学連携実習Ⅱ)

※ 産学連携実習Ⅱの巡回頻度は、期間中に4回

※ ◎は登校日
※ ■は発表日

事業所名	受入人数	16週																												
		2/1	2/2	2/3	2/4	2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25	2/26	2/27	2/28	2/29
1		木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
3	3		◎					■																						
4	2		◎					■																						
5	1		◎					■																						
7	2		◎					■																						
8	1		◎					■																						
9	1		◎					■																						
10	2		◎					■																						
11	2		◎					■																						
12	4		◎					■																						
13	2		◎					■																						
14	1		◎					■																						
15	2		◎					■																						
16	5		◎					■																						
17	2		◎					■																						
19	2		◎					■																						
20	2		◎					■																						
21	1		◎					■																						
23	5		◎					■																						
24	1		◎					■																						
25	1		◎					■																						
27	3		◎					■																						
28	2		◎					■																						
29	1		◎					■																						
30	1		◎					■																						
31	1		◎					■																						
32	2		◎					■																						
33	2		◎					■																						
34	5		◎					■																						
35	4		◎					■																						
36	1		◎					■																						
37	1		◎					■																						
38	2		◎					■																						
39	1		◎					■																						
40	2		◎					■																						
41	2		◎					■																						
42	2		◎					■																						
43	2		◎					■																						
44	1		◎					■																						

※産学連携実習は、学生の実習先希望を踏まえた調整を行うことから、実際の実習先は現時点では不明なため、本資料に記載した事業社名は、資料P7で示した事業所のNO.1から受入人数が80人に達するまでの事業所とした。

凡例：◎は登校日、網掛けは実習日、アルファベットは各専任教員

A: 島田、B: 李、C: 金子、D: 片桐、E: 田辺、F: 永澤、G: 泉、H: 塚本、I: 茨木、J: 高橋、K: 和田、L: 大川、M: 伴、N: 川崎、O: 小林
P: 加藤、Q: 橋本、R: 耐、S: 田代、T: 江面、U: 石塚、V: 野口、W若木

新規学卒者の就職後3年以内離職率

【大学】

年	離職率
平成23年	32.4
平成24年	32.3
平成25年	31.9
平成26年	32.2
平成27年	31.8

(出典：新規学卒就職者の離職状況)

総合科目（学内）におけるグループワークの実施計画

○総合科目（学内）の実施に関して

技術開発、製品開発、商品企画など様々プロジェクトを進めていく際、個人ではなく複数人のチームにおいて進めていくことがほとんどである。そこで、技術・経営工学科においては、アクティブラーニングを取り入れたグループワークを主体とする PBL（Project Based Learning）科目を1年次より体系的に設定する。具体的には、プロジェクト演習Ⅰ～Ⅳ、プロトタイピング演習、商品企画プロジェクト演習の6科目である。

プロジェクト演習Ⅰ（1年次前期）では、グループワークを行うための自己基盤の形成と情報収集方法、グループワークの手法について学修する。

プロジェクト演習Ⅱ（1年次後期）では、商品分析やビジネス分析フレームワークのケーススタディを通じてグループワークにおけるチームビルディング、役割分担、リーダーシップ等を経験的に学修する。

プロジェクト演習Ⅲ（2年次前期）では、企業、業界、市場の分析をグループで行い、ファンダメンタル分析について実践的に学修し、企業の強みや弱み、可能性や潜在的な能力を客観的に分析するマーケティング戦略に関する手法について学修する。

プロジェクト演習Ⅳ（2年次後期）では、実際の企業における課題の解決プロセスのケーススタディをグループワークを用いて学修し、問題解決の手順（カイゼンステップ）を経験する。

これらの4科目と学外学修の産学連携実習Ⅰ、Ⅱの2科目を経た先のグループワークの集大成として3年次前期にプロトタイピング演習、4年次前期に商品企画プロジェクト演習を設定する。

プロトタイピング演習は、技術/製品の開発に関する総合的演習科目であり、デザイン、コンセプト、機能を具現化し検証する手法（PoC：Proof of Concept）を学修し、設計から試作、検証の実践を行う。

商品企画プロジェクト演習は、商品/事業の企画に関する総合的演習科目であり、ニーズ調査から商品戦略、企画立案について学修し、企画立案書の作成提案の実践を行う。

これらの科目を通じて、プロジェクトをチームで動かしていくための能力を涵養する。

○各科目におけるのグループワークの実施計画

【プロジェクト演習Ⅰ（1年次前期/必修科目）】

本科目は2時限連続で隔週（全8回）開講とし、各授業を通じて、総合的にグループワークの手法について演習していく。第1回から第4回の授業までは、講義形式を主とし、考え方や情報リテラシ、自己分析について学修する。第5回以降は実際にディスカ

ッションを行い、グループワークの基盤となる考え方や手法について学修する。グループワークの人数及びメンバーは、個人作業と組み合わせながら、2～5人のグループを構成して行う。本科目における教員は4人配置しているが、各授業においてテーマが大きく変わるため、授業ごとに担当教員が異なる。その他3人の教員は演習の補助として授業に携わる。各授業におけるグループワークの詳細は次のとおりである。

- ・第1回：約5人程度のグループで授業テーマに関するディスカッションを行う。
- ・第2回：ペア（2人）による対話能力に関する演習を行う。
- ・第3回：個人による情報収集に関するワークを行う。
- ・第4回：個人による自己分析ワークを行う。
約5人程度のグループで分析結果についての発表と意見交換を行う。
- ・第5回：約5人程度のグループでグループワークの基本的な一連の流れを演習する。
- ・第6回：約5人程度のグループで授業テーマに関するディスカッションを行い、発表、意見交換を行う。
- ・第7回：約5人程度のグループで、課題の不明確な対象に対して、グループごとの独自の課題を明確に導き出すグループワークを行う。
- ・第8回：第7回の演習の成果を全体に対して発表し、意見交換を行う。

【プロジェクト演習Ⅱ（1年次後期/必修科目）】

本科目は2時限連続で隔週（全8回）開講とする。プロジェクト演習Ⅰで学修したグループワークの手法を活用し、各授業を通じて、商品や事業（ビジネス）の分析手法について演習する。ここでは、ビジネス分析フレームワークを用いて、チェンジ・ニーズ・ソリューション・ステークホルダー・価値・コンテキストの6つの要素と各々の関係性を示して商品や事業の分析を行う。

授業において商品分析を行うが、授業期間中は同一の小グループで演習に取り組むことで、チーム作業の重要性を理解し、個人の役割を知り、リーダーシップやチームビルディングなどを経験的に学修することに重点を置く。授業は、分析ツールやフレームワークの解説とグループ演習を組み合わせ実施する。第1～3回では、提示する題材の情報収集、第4～7回では、ビジネス分析フレームワークの作成によって情報分析と課題設定を行う。第8回では、分析成果の発表を行う。なお、グループ人数は約5人、全16グループを想定している。本科目では、授業の主担当1人、演習を補助する副担当3人の教員を配置する。各授業におけるグループワークの詳細は次のとおりである。

- ・第1回：約5人程度のグループで授業テーマに関する簡易的な演習を行う。さらにグループごとに第8回までの役割分担や計画を作成する。
- ・第2回：グループごとに情報収集、ディスカッション、情報の整理を行う。
- ・第3回：同上
- ・第4回：グループごとに情報収集、整理の状況を確認し、スケジュール調整を行い

教員のチェックを受ける。

- ・第5回：グループごとに収集・整理した情報を分析し、ビジネス分析フレームワークを構築する。
- ・第6回：同上
- ・第7回：グループごとに構築したフレームワークから課題を分析し、明確化する。
- ・第8回：第1～7回の演習の成果を全体に対して発表し、意見交換を行う。

【プロジェクト演習Ⅲ（2年次前期/必修科目）】

本科目は2時限連続で隔週（全8回）開講とする。プロジェクト演習Ⅰで学修したグループワークの手法、プロジェクト演習Ⅱで学修したチームビルディング能力を活用し、各授業を通じて、企業分析の手法について演習する。ここでは、企業の経営やマーケティング戦略に用いられる分析手法やそれらの特徴について解説し、グループワーク形式で演習を行う。

実際に企業で実習する産学連携実習Ⅰ（2年次後期）、産学連携実習Ⅱ（3年次後期）に備え、企業の強みや弱み、可能性や潜在的な能力を客観的に捉えるための手法を学修し、実習先選定や、実習計画作成・遂行に活用させる。

授業は、各分析の手法や特徴についての解説とグループ演習を組み合わせる。第1～3回では、ファンダメンタル分析の中でも定性的な分析手法について、第4～6回では、定量的な分析手法について、第7回では、SWOT分析についての演習を行う。第8回では、分析成果の発表を行う。なお、グループ人数は約5人、全16グループを想定している。本科目では、授業の主担当1人、演習を補助する副担当3人の教員、更に各専門分野をサポートする教員を4人配置する。

各授業におけるグループワークの詳細は次のとおりである。

- ・第1回：約5人程度のグループでファンダメンタル分析に関する簡易的な演習を行う。
- ・第2回：マクロ環境を把握し、環境要因を網羅的に洗い出すためのPEST分析の手法や特徴についての解説後、グループごとに演習を行う。
- ・第3回：業界構造分析の手法の一つであるファイブフォース分析についての解説後、グループごとに演習を行う。
- ・第4回：定量分析の必要性とその概要、市場に関する定量分析の手法について解説後、グループごとに演習を行う。
- ・第5回：自社及び他社に対する定量分析の手法について解説後、グループごとに演習を行う。
- ・第6回：第5回の演習の続きとし、定量分析に必要なスキルとして、有価証券報告書の読み方についての解説後、グループごとに演習を行う。
- ・第7回：企業の分析に用いられるSWOT分析について解説後、第2～6回までの分

析成果を活用し、グループごとに SWOT 分析に関する演習を行う。

- ・第 8 回：第 1～7 回の演習の成果を全体に対して発表し、意見交換を行う。

【プロジェクト演習Ⅳ（2 年次後期後半/必修科目）】

本科目が開講される 2 年次後期は産学連携実習Ⅰの影響で後半（約 1/4 期）のみが授業期間となることから、2 コマ連続で毎週（全 8 回）開講とする。産学連携実習Ⅰにおいて、実際の企業での課題解決の事例の調査を基に、グループごとに企業の課題の解決案提案までのステップについて演習する。ここでは、トヨタ流のカイゼンステップを取り上げ、問題の分析や明確化から、目標設定、対策、標準化までの課題解決の手法について解説し、グループワーク形式で演習を行う。

授業で取り扱う題材（テーマ）は、産学連携実習Ⅰにおいて発見してきた課題（企業の許可及び課題としての妥当性を教員が許可した場合のみ）、または教員側が提示する仮想企業の課題について取り扱う。第 1 回ではトヨタ流カイゼンステップ（全 8 ステップ）に関する概略の解説を行い、第 2 回から第 6 回までにステップ 5 まで演習する。ステップ 6～8 は、それぞれ実行、評価、標準化のため詳細な演習は行わない。そこで、第 7 回では、対策案に対して教員側からフィードバックを行い、それを基に修正をし、第 8 回で演習成果の発表を行う。なお、グループ人数は約 5 人、全 16 グループを想定している。本科目では、授業の主担当 1 人、演習を補助する副担当 3 人の教員、更に各専門分野をサポートする教員を 4 人配置する。

各授業におけるグループワークの詳細は次のとおりである。

- ・第 1 回：グループの構築および題材設定を行う。
- ・第 2 回：カイゼンステップ 1、2 の「問題の明確化」と「現状の把握」についてグループごとに演習する。
- ・第 3 回：カイゼンステップ 2、3 の「現状の把握」と「目標設定」についてグループごとに演習を行う。
- ・第 4 回：カイゼンステップ 3、4 の「目標設定」と「要因解析」についてグループごとに演習を行う。
- ・第 5 回：カイゼンステップ 5 の「対策立案」についてグループごとに演習を行う。
- ・第 6 回：第 5 回の続きを行い、教員に対して第 1 回目の提案を行う。
- ・第 7 回：第 6 回の提案を受け、教員よりフィードバックされた意見を基に対策案の修正を行い、発表準備を行う。
- ・第 8 回：第 1～7 回の演習の成果を全体に対して発表し、意見交換を行う。

【プロトタイプ演習（3 年次前期/選択必修）】

本科目は 2 時限連続で隔週（全 8 回）開講とする。2 クラスに分けて実施し、第 1、8 回は 2 クラス合同で行い、それ以外は交互に授業を開講する（表 1 参照）。プロジェ

クト演習 I～IV、産学連携実習 I の科目に加え、各講義科目で得た知識を総合して技術開発や製品開発について一連のプロセスを学ぶ本科目では、機能の具現化、検証する手法（PoC：Proof of Concept）のプロセスを実践的に取り組む。

第 1 回に提示するテーマに対して、グループでデザイン、コンセプト、プロトタイプ製作、検証、フィードバックのプロタイピングの一連の流れを演習する。第 1～2 回ではグループ構築、テーマ選択、構想設計を行い、第 3 回のデザインレビューで 1 回目の発表とフィードバックを行い、試作の準備を行う。第 4～5 回では、詳細設計から試作までを行い、第 6 回に試作機の評価及び検証を行う。第 7 回において、成果の全体発表を行い、第 8 回にフィードバックとレポート作成を行う。なお、グループ人数は約 3～5 人を想定している。本科目では、授業の主担当 1 人、副担当 3 人の教員を配置する。また、試作品製作における各種機器（工作機械、3D プリンター、電子機器（マイコン等））の使用時には、専任教員に加え、技術職員も学生のサポートを行う。

各授業におけるグループワークの詳細は次のとおりである。

- ・第 1 回：グループの構築およびテーマ選定を行う。
- ・第 2 回：コンセプト、デザイン等の構想設計をグループごとに取り組む
- ・第 3 回：構想設計のプレゼンテーションを行い、教員からフィードバックを受け、設計の見直しと、今後の作業計画を行う。
- ・第 4 回：詳細な設計と部品調達、部品製作、組立の施策を行う。
- ・第 5 回：同上
- ・第 6 回：試作機の評価、検証を行い、発表資料の準備を行う。
- ・第 7 回：第 1～6 回の成果の発表を行い、フィードバックを受ける。
- ・第 8 回：フィードバックも含め、レポートの作成を行う。

表 1 各週における開講クラスについて

	1 週 目	2 週 目	3 週 目	4 週 目	5 週 目	6 週 目	7 週 目	8 週 目	9 週 目	10 週 目	11 週 目	12 週 目	13 週 目	14 週 目
開講 クラス	A,B 第 1 回	A 第 2 回	B 第 2 回	A 第 3 回	B 第 3 回	A 第 4 回	B 第 4 回	A 第 5 回	B 第 5 回	A 第 6 回	B 第 6 回	A 第 7 回	B 第 7 回	A,B 第 8 回
時限数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1

【商品企画プロジェクト演習（4年次前期/選択必修）】

本科目は通常講義科目と同様に全 15 回の毎週 1 時限開講とする。プロジェクト演習 I～IV、産学連携実習 I～II の科目に加え、各講義科目の集大成として実施する本科目では、商品企画や事業企画の一連のプロセスを学び、「売れる商品の企画」をいくつかのキーツールを駆使し、実践的に取り組む。

第1回は本科目の導入として、顧客ニーズから「他社よりも魅力のある」商品企画・製品開発目標への展開プロセスについての講義を行い、第2回からグループワークを取り入れる。第2～13回までを通じてグループで商品の企画を行い、企画立案書の作成に取り組む。第14回に成果発表、第15回に企画立案書の修正、提出を行う。なお、グループ人数は約3～5人を想定している。本科目では、授業の主担当1人、演習を補助する副担当2人の教員を配置する。本科目は4年次に開講するため、学生の自主性を尊重し、必要なサポートを個別に行うことができる体制とする。

各授業におけるグループワークの詳細は次のとおりである。

- ・第1回：プロジェクトの概要を提示し、QFDを基幹とした商品開発プロセスについて解説する。(講義、演習なし)
- ・第2回：グループを構築し、市場の定義に関してグループで演習に取り組む。
- ・第3回：市場動向の調査、顧客の特定に関してグループで演習に取り組む。
- ・第4回：顧客要求(ニーズ)を調査に関してグループで演習に取り組む。
- ・第5回：定性調査から潜在的ニーズの抽出に関してグループで演習に取り組む。
- ・第6回：VOCから要求品質抽出に関してグループで演習に取り組む。
- ・第7回：第2～6回までの調査を参考に企画の品質を決定する。
- ・第8回：企画立案のためのコンセプト設定に関してグループで演習に取り組む。
- ・第9回：品質特性を抽出し、品質表の作成に関してグループで演習に取り組む。
- ・第10回：品質特性の重要度の計算やトレードオフに関する演習に取り組む。
- ・第11回：品質表を参考に設計品質(仕様)の決定に関する演習に取り組む。
- ・第12回：市場セグメントとコンセプト、品質の対応が図られているか確認を行う。
- ・第13回：コストワース分析(Cost/Worth分析)に関する演習及び企画立案書の作成
- ・第14回：第2～13回で作成した企画のプレゼンテーションを行う。
- ・第15回：プレゼンテーションでの意見をフィードバックした企画立案書を作成する。

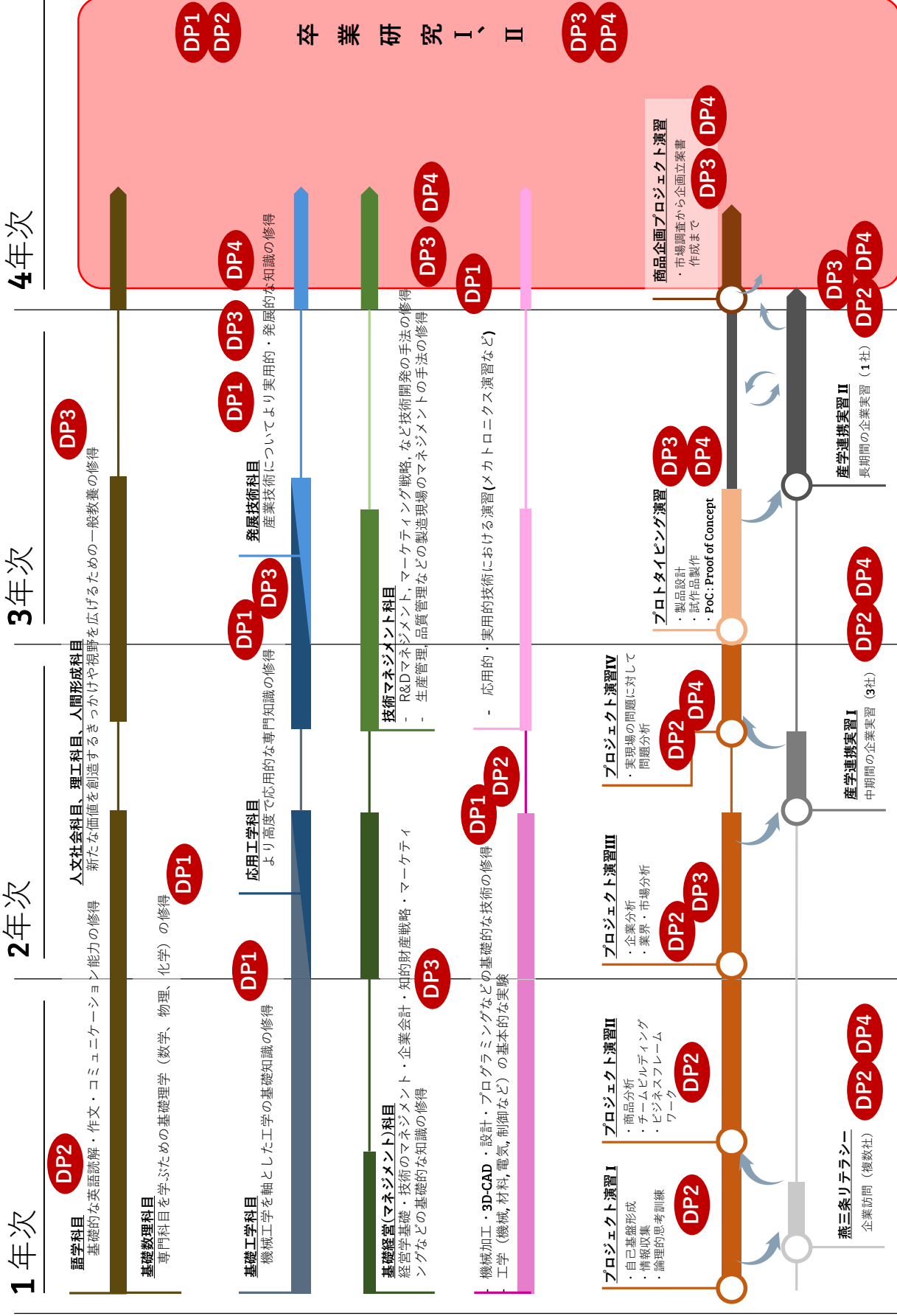
○グループワークの進め方に関する共通認識事項

グループワークを指導(運営)する教員は次の事項について意識し、担当教員間で共通の認識を持つことで、円滑な演習の進行を目指す。

✓ 教えすぎない指導に努める。

- ・学生にはHow toを教えるのではなく、学生に考えさせる質問Whyを投げかける。
- ・学生にWhyを投げかけた後、学生から出てきた答えを正解まで導く。
- ・プロジェクトを進めていくのは学生であり、教員からの意見はあくまでアドバイスであって意思決定を強制するものであってはならない。

- ✓ 学生のモチベーションに対して配慮する。
 - ・ 学生の存在を認め、現れている変化や違い、成長にいち早く気づいて、学生と会話する。
 - ・ 学生の心理状態を意識し、甘やかさず、追い込まない指導を行う。
- ✓ 学生の進捗状況の把握に努める。
 - ・ 授業全体及び各グループの進捗状況を定期的に確認する。
 - ・ 進捗が当初の計画から遅れている場合は、学生にその原因を考察させるとともに、間に合わせるための解決案と計画の調整を学生主体で考えさせ、そのサポートを行う。



教養科目 24.0 %

専門科目 76.0 %

◆講義 48.8 % 63単位

工学系 33.3 %
モデルA: 35.6%, モデルB: 31.0%

マネジメント系 15.5 %
モデルA: 12.4%, モデルB: 18.6%

◆ハンズオン 7.0 % 9単位

実験/実習 7.0 %
モデルA: 7.8%, モデルB: 6.2%

◆PBL/EBL 20.2 % 26単位

On-Campus学修 (PBL) 10.9 %
(卒業研究 I、IIを含む)

Off-Campus学修 (EBL) 9.3 %